



建築は詩

建築家 吉村 順三

『よい住宅』

たまりー重心のある空間を

よいプロポーションでおさまっている家、単純明快におさまっているシンプルな家などは大変気持ちのよいものであるが、「よい住宅」というのは、形そのものよりむしろ、その家自体に「たまり」というか、重心のある家のことだと思う。「たまり」はそこで営まれるであろう家庭生活を豊かに楽しくするものである。

『日本の気持ち』

日本の気持ちから出たものをつくるべきでしょうね。つまり簡素でありながら美しい、というものを考えてですね。日本の気持ちを養うことが大切なのではないかと思えます。自分たちの住んでいる日本の、長年にわたって風土と文化によって培われてきたさまざまな建築から学ぶことが必要なのではないのでしょうか。

「建築家吉村順三のことば 建築は詩」より抜粋
皇居新宮殿の設計者に選ばれ基本設計を託される

たてもんの見聞録

～鎌倉編～

鎌倉文学館

小径を歩いていくと、上高地の帝国ホテルを想わせる車寄せが目にとまり、玄関に入ると高田博厚作のロマン・ロランのブロンズ像が出迎えてくれる。美術館巡りをしていた青春時代を思い出す。館内の展示品を見て廻ると、鎌倉文士といわれる大佛次郎、川端康成、久光正雄、小林秀雄、里見弴、高見順、新婚生活を送った芥川龍之介や堀辰雄、そして、竹西寛子(広島皆実高校卒)、三島由紀夫といった多くの作家がこの地を愛した様子が窺える。庭に出て目を閉じれば、海岸の波の音、路地を歩く下駄の音、夕刻のお寺の鐘の音が今にも聞こえてきそうな静寂とした鎌倉文学館の地であつた。(H. I)



現在施工中の現場

県庁本館地下1階食堂改修工事



弊社提案プラン No2



良縁地藏

鎌倉長谷寺の境内に可愛らしいお地藏さまがいらっしゃいました。皆様に素敵な出会いがありますように！



株式会社 ウイズアート

住所 広島市中区竹屋町1番17号IMビル8F
TEL/FAX 082-247-0062 / 247-0063
Eメール itoh@uizu-art.jp
ホームページ ウイズアート広島 で検索

2月21日「夢を語ろうプロジェクト」始動

「夢を語ろうプロジェクト」の第1回目が、同日18時30分より㈱ウイズアートにて開催されました。この企画は、弊社の伊藤が昨年K大学の講義を受講し、また広島市小学生陸上教室で日本を代表する若い選手達と交流があった中で、何かできることはないかと思案し計画しました。お世話になったK大学の先生が運営協力を快く引き受けてくださり、20代から40代の様々な職種の14名の方に参加していただくことになりました。

当日はまず、先生が経営学から見た日本的経営、外国との違い、これからの経営戦略等を日本の漫画を例に挙げてわかりやすく講義してくださいました。次に、自己紹介を兼ねて参加者が、自分への、家族への、日本への、将来への、仕事への夢を熱く語りました。予定の2時間はあっという間に過ぎ、会を終えても話は尽きませんでした。先生が帰られるとき「夢を語るというのは、何かになるというのではなく、どういう生き方をするのか、どんな山をどのように登っていくのかを考えることではないのか。」とおっしゃいました。

『夢を語る』は人間として生まれてきた私達にとって大きな意味のある事だと思いました。

(S.I)



★プログラム概要★

	日程	テーマ
1	2/21(金)	「夢を語ろう」 参考資料「日本的職業倫理の系譜」
2	4月中旬	「広島を考える」
3	6月中旬	「哲学的建築を語る」
4	8月中旬	「私のイノベーション」
5	10月中旬	「私のブランドを探そう」
6	12月中旬	「もう一度私の夢を語る」

※参考資料について

【鈴木正三】三河武士、関ヶ原で戦い後禅僧となる。彼の言葉の「仕事則仏行」はあらゆる職業は万人のため、世のため、国のためにあるという倫理観を表す。

【松下幸之助】松下電器(現社名パナソニック)の創業者。すべての物質を水のごとく無尽蔵足らしめようと説く彼の「水道哲学」は有名。

今の豊かな日本において、世の中に送り続けるものは何だろうか? 「経済格差」より、もっとこわいのは「知的格差」だと思います。ともあれ教養を深め、世の中に役立つ仕事を行っていきたいと思います。(伊藤弘幸)